

第1問

	問1	問2	問3	問4	問5
154回	手形取引	売上取引	仮払金	固定資産の売却	利息の受取
153回	貯蔵品の決算整理	社会保険料の納付	売上取引	借入金の返済	固定資産の購入
152回	固定資産税の納付	手形借入金	仮払金	新株発行	固定資産の購入
151回	売上戻り	仕入取引	固定資産の購入	経費の支払い	借入金の返済
150回	固定資産の購入	損益の振替	現金過不足	固定資産の改良と修繕	租税公課

第2問

出題の可能性が高いもの（過去問より）

- ・補助簿の選択
- ・勘定記入

対策

- ・補助簿の選択

文章からどの補助簿を使用するかを確認

商品売買は、仕入帳や売上帳の他に商品有高帳を使用する点に注意

- ・勘定記入

どこに何の勘定科目が入るかを理解する

経過勘定は、決算と再振替があるため2ヶ所は最初に埋められる

苦手ならば何度も練習する

どうしてもわからなければとばす（配点が低いため合否の影響は少ない）

第3問

・内容

試算表（合計試算表・残高試算表・合計残高試算表の中から1つ）

・問題文の形式

文章

資料

出題可能性が高い

- ・商品売買（相手勘定は1つ）
- ・商品売買の相手勘定が複数の取引（例：一部は前受金と相殺で残額は掛け）
- ・経費の支払い（水道光熱費・家賃・給料（源泉所得税を一時的に預かる））
- ・仕入戻し、売上戻り
- ・源泉所得税の支払い

※注意点

・文章形式の問題

勘定科目は、文章の中にヒントが隠されています。

文章を読んでどの勘定科目を使用するかを素早く判断できるようにしましょう。

・資料形式の問題

①資料にヒントが隠されている

現金に関する事項

a 売上代金の受取り

b 水道光熱費の支払い

これらは、借方・貸方のどちらかが現金勘定です。相手勘定は、文章から判断します。

②計算時に重複取引に注意する

現金に関する事項

a 売上代金の受取り

売上げに関する事項

a 現金売上げ

この2つは重複取引になるため1つの仕訳のみを計算します。

第4問

出題の可能性が高いもの（過去問より）

- ・ 語群選択
- ・ 勘定記入
- ・ 帳簿記入
- ・ 伝票会計

対策

- ・ 語群選択

普段の学習で簿記の用語を理解する

- ・ 勘定記入

対策は、第2問と同じ

- ・ 帳簿記入

商品有高帳の移動平均法を出来るようにする

- ・ 伝票会計

複雑なパターンを理解する

- ・ 取引の分解（現金が入る取引と現金が入らない取引）を出来るようにする
- ・ 商品の全額を掛けで取引。その後に現金の取引をした取引を出来るようにする

第5問

- ・内容

財務諸表か精算表

- ・仕訳

決算整理

8個から9個程度

- ・出題の可能性が高い

売上原価

貸倒引当金の設定

固定資産の減価償却

経過勘定

仮払金や仮受金の判明

未処理

- ・対策

問題用紙と解答用紙を合計30秒程度で見る

問題文の短いことから解く（売上原価や未処理等）

仮払金や仮受金は、難易度が低い

貸倒引当金は、決算整理で売掛金や受取手形の変動がなければ早めに解く

経過勘定は、月割計算に注意

減価償却も月割計算に注意